

■感じる世代間の差

子育てママの取材の中で、かわら版に登場していただいた以外にも、多くのママたちの話を聞くことができました。まず一番感じたことは、自分の子育て時代との「世代間の差」でした。

私たちのころは核家族での子育てで、子どもと自分だけの狭い世界で、社会から孤立したような不安やいらだちを抱えたり、育児ノイローゼになったりするママもいました。



子育て奮闘記の取材を通して 熊田玲子（かわら版記者）

■活動的なママたち

現代ではほとんどが車での移動です。歩く機会が少なくなると同時に、ママと子の行動範囲がともかく広くなりました。一人おぶって二人の子の手をつないでバスに乗る姿はあまり見かけません。おぶうこと自体少なくなってきたようです。

姑に気兼ねして自分たちの子育てができないなんて話は遠い昔の事のようにです。

子どもへの虐待やモンスターペアレントなど問題になっている昨今ですが、やさしさと厳しさを持った子育てをしているママたちに心からのエールをおくります。

■ママたちの悩み

一方、外で暗くなるまで子どもたちだけで遊ぶなんて、とても危なくてできない、犯罪の多い世の中になってしまいました。それに塾通いでいそ

がしい子やゲーム機ばかりで遊ぶ子たちなど…。遊びをさせたくてもできないママたちの苦悩も垣間見えました。

矢板の 元気印

■今、市民自らの手で学校平周辺の荒れたツツジの群落を再生し、もう一度矢板の名所として復活させようという壮大な計画が進められつつあります。

■「山の駅たかはら」のある学校平周辺はレンゲツツジだけでなく、ゴヨウツツジ、トウコクミツバツツジなどの群落があり、かつてはツツジの名所でした。八年ほど前には、八方ヶ原牧場の西側にそのツツジを見ながら散策できる遊歩道が延長2.5キロにわたって作られました。しかし、現在その遊歩道周辺のツツジは瀕死の状態に…。

矢板の宝物・学校平のツツジを守ろう！ 新風・たかはら



■四月から十一月まで、月に二回ほどの作業をこれからも続け、作業終了後の親睦会なども計画。趣旨に賛同協力してくれる方大歓迎のこと。

■四月から十一月まで、月に二回ほどの作業をこれからも続け、作業終了後の親睦会なども計画。趣旨に賛同協力してくれる方大歓迎のこと。



立派なシロヤシオ

みんなで汗を流します

始まりました！ 矢板駅前コンフォート

◆以前かわら版で行った「どうすつべ矢板百人アンケート」で、かなり多かったのが「市の表玄関である矢板駅周辺の寂しさ。で、来賓として招かれた遠藤市長は「見守り、見守られ、共に暮らしていく地域作りを目指すための地域サポートセンター」としての実証、実験の場ととらえ、この活動を支援していきたい」と、今後の活動に期待しています。

◆このほど市民有志で立ち上げた「矢板駅前コンフォート（快適、安楽という意味）」は、市内外の人が集い、交流し、情報提供できる場を駅前で作ろうというもの、まさに市民の声にこたえる活動にふさわしいと、今後の活動に期待しています。

◆当面の事業目的は次の三つ
①人が自由に集う「たまり場」を作る
②市内の情報を提供する総合案内所機能
③市民ボランティアへの協力、支援

代表に選ばれた坪山岩男さんは、「まずは小さなことから、アリの這うごとく進めていく。ぜひ、支援・参加をお願いします」



編集後記

取材に出かける車から見る花に心が和みます。矢板には花を愛でる地域があちこちにある事に気づきうれしくなりました。